

保育園のわらい

役割を担って自分たちで遊びや生活を進めて行く

カリキュラム No.36 … やさしい子ども …

新しい鬼ごっこ（バナナ鬼ごっこ）を教えてあげるよ


7月

第二若葉保育園

☆ 視点に関わる背景 ☆

- ・年中、年長混合クラスなので、年中児に生活の仕方を教える等、年長児としての自覚は生まれた。しかし、年長児が少なく大勢の友だちと遊ぶ機会がないので、同じ地域の幼稚園の年長児との交流を計画した。
- ・花巻幼稚園との交流会では、たくさんの園児に驚いていたが、出合いやわらべうた遊びを一緒に楽しんだり、新しい遊び（バナナ鬼ごっこ）を教えてもらったりしながら、仲よく遊ぶ楽しさを感じたり、友だちができたという喜びや自信が生まれたりした。

☆ 経過 ☆

園児の姿 (○)	環境や援助 (◎)
<p>○花巻幼稚園から帰園 ○留守番をしていた同じクラスの年中児に挨拶をする。 ○出迎えた年中児に幼稚園で教えてもらった「バナナ鬼ごっこ」を早く教えたい、楽しかったので一緒に遊びたい様子である。</p> <p>○A子がリーダーシップを発揮して「バナナ鬼ごっこは捕まった人がバナナになるの」と説明し始める。</p> 	<p>◎自分たちが経験した遊びを年中児に教えたい、一緒に遊びたいという気持ちを大切にします。 ◎遊びの時間を設ける事を約束する。</p> <p>◎「楽しい鬼ごっこを年長さんに教えてもらおうか」と話し、詳しい説明が行われるよう見守る。</p>
<p>○年中児の中に鬼ごっこのイメージが分からないと思われる子がいる。</p> <p>○B子が捕まった時のバナナのポーズをして見せる。 ○A子「他の子が助けるんだよ」 ○普段人前では照れることが多いC子が率先して「ムキって言うんだよ」と手本を見せる。 ○他の年長児も「助けてって言うんだよ」「早く逃げるんだよ」等ルールを話す。 ○誰が鬼になるか決めて鬼ごっこを始める。</p>	<p>◎年中児に「おもしろそうだね」「やってみたいね」と声掛けをして、興味を持って話が聞けるようにした。</p> <p>◎「バナナってどうするの？」等声掛けをしながら、遊びの説明が子どもたちで出来るよう見守る。</p> <p>◎わかりやすく話したり、手本を見せたりしてくれたことをほめた。</p> <p>◎はしゃいでぶつかりそうになる子がいるので安全に楽しめるよう見守る。</p>  <p>◎またみんなで遊ぶことを約束し、期待を持たせる。</p>

☆ 考察 ☆

年長、年中児が混合のクラスの長所として、年長児が手本になったり、知らないことを教えてあげたりする、と言う兄弟のような関わりが見られる。交流会後の年中児との関わりの中で、自分たちは大きくなったという意識が増したようである。年長児自身の社会が少し広がったことは良い経験だった。

鬼ごっこ等、様々な遊び中で、みんなで楽しむためにはルールを守ることが大切だと気付く必要がある。今回の鬼ごっこはまだ保育者の助言が必要だが、自分たちで遊びを進めて行くために、遊びや話し合いを繰り返し行える環境作りの工夫と支援から、見守りへの移行の工夫の必要性を確認した。